

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	経済
目標年	2012年合格目標	科目②	
コース	1次 直前対策セミナー	回 数	1 回

収録日	2011 年 12 月 12 日		
講師名	小川 先生	講義録 枚数	1 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3 枚 (サイズ)

講義構成	講義（ 2 6 ）分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . 無		
	①		
	②		
正誤表	有 . 無	枚	
備考			

証券アナリスト 講義録		科目 経済	コース 1次対策 直前セミナー	回数 1
-------------	--	----------	-----------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
-----	--	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内 容												
	直前対策セミナー 1次経済 <大問別の構成> <table><tr><td>第1問</td><td>ミクロ経済学</td><td>27%</td></tr><tr><td>第2問</td><td>マクロ経済学</td><td>39%</td></tr><tr><td>第3問</td><td>金融論</td><td>14%</td></tr><tr><td>第4問</td><td>国際金融論</td><td>20%</td></tr></table> 配点ウエイト } <u>66%</u> <直前期の学習> - 問題演習をこなす。 文章の正誤 グラフの正誤 計算問題 <u>(背景)</u> 経済理論・公式	第1問	ミクロ経済学	27%	第2問	マクロ経済学	39%	第3問	金融論	14%	第4問	国際金融論	20%
第1問	ミクロ経済学	27%											
第2問	マクロ経済学	39%											
第3問	金融論	14%											
第4問	国際金融論	20%											

直前期における科目別学習解説セミナー

1 次経済

TAC証券アナリスト講座

経済担当：小川

はじめに — 1次経済本試験の概要

- 試験時間は90分、90点満点。
- 問題数は概ね55問程度。すべて選択問題（4択または5択）
- 大問は4つ。配点ウェイトは以下の通り。

【大問別の配点ウェイト】 新プログラム試験以降

	19 年		20 年		21 年		22 年		23 年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
第1問 ミクロ経済学	19%	20%	24%	26%	27%	27%	27%	27%	27%	27%
第2問 マクロ経済学	43%	44%	40%	38%	39%	39%	39%	39%	39%	39%
第3問 金融論	20%	16%	16%	16%	14%	14%	14%	14%	14%	14%
第4問 国際金融論	18%	20%	20%	21%	20%	20%	20%	20%	20%	20%

- 第1問（ミクロ経済学）は、平成19年春から始まった新プログラム試験で初めて導入されました。配点ウェイトはしばらく上昇しましたが、ここ最近は安定しています。
- 最も配点が高いのは第2問（マクロ経済学）であり、毎回約4割を占めています。
- 第3問（金融論）は、配点は高くありませんが、個別の知識を覚えておけば対応できる問題が多いので、ある程度高得点を確保したいところです。
- 第4問（国際金融論）では、国際収支や為替レートに関する仕組みや計算問題が多く出題されています。

各分野の概要

① ミクロ経済学

- 個人や企業の経済活動についての意思決定（＝選択）や、財やサービスが取引される市場の役割とそのメカニズムについて学習します。
- キーワードとしては、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者行動、企業の生産活動、不完全競争市場（独占、寡占）、余剰分析、市場の失敗、等が挙げられます。
- さらに、異時点間の効用を最大化する個人による「将来の消費＝貯蓄」の決定（異時点間消費理論）、将来の結果が不確実な状況での選択（不確実性下の選択）が取り上げられます。
- 他の経済主体の行動を勘案して意思決定が行われるケース（ゲーム理論）や、情報が十分に行き渡っていない場合の意思決定（情報の経済学）も試験範囲に含まれます。

② マクロ経済学

- マクロ経済学とは、一国経済を巨視的な（マクロな）観点から眺めて、その仕組みを分析する分野であり、一国全体の経済、金融が分析の対象になります。
- 国民所得統計（GDP）、IS-LM 分析、AD-AS 分析（総需要・総供給分析）、フィリップス曲線、経済成長理論、等が取り上げられます。
- マクロ経済学は、本試験における配点ウェイトが最も高く（約4割）、続く2分野（金融論、国際金融論）の基礎にもなるため、幅広く学習しておく必要があります。

③ 金融論

- 金融論では、金融取引の機能・仕組みや金融システムなどが取り上げられます。
- 日本の金融市場（短期金融市場、長期金融市場）に関する知識も求められます。
- 日本銀行が行う金融政策も出題範囲になっています。金融政策の運営方法やマネーサプライ、貨幣乗数、準備預金制度、等が取り上げられます。
- 政府も金融活動を行っています。日本における国債発行・流通の仕組み、財政赤字の問題点なども試験範囲です。

④ 国際金融論

- 国際金融論では、国際収支や外国為替レートの見方、理論的な決定要因の学習が出題の中心になります。
- 実質為替レート、金利平価説、購買力平価説、等の考え方と、それらを応用した理論モデルが紹介されます。
- 国際金融論では計算問題のウェイトが高いため、なるべく多くの問題にあたって計算のパターンに慣れておく必要があります。

直前期の対策について

- TAC の直前対策講義では、1 次経済の過去問題のうち、頻出分野を中心に問題を解き、その解説を行います。
- 直前対策講義では、過去問題の背景にある経済学の仕組み・考え方をコンパクトに解説します。問題の背景にある考え方を理解しておけば、応用が利き、丸暗記では得られない学習効果が期待できます。
- ただし、頻出分野といってもその出題形式は回によって様々です。文章の正誤を見極める問題もあればグラフの正誤を判断する問題もあります。計算問題でも一つの公式から様々なパターンの問題が出題されています。過去問題を数多くこなすことで、これら多様な出題形式に対応できる実力を身に付けて頂きます。
- 早期の合格を目指される方、独学では実力が身に付かないとお考えの方は、是非 TAC の直前対策講義にご参加ください。教室でお待ちしています。